

統計 追加資料

教材の配信後、「令和 5 年度」マンション総合調査結果が令和 6 年 6 月 21 日に公表されています。教材配信時には、「平成 30 年度」マンション総合調査結果をもとに解説を作成していますが、両者の結果に基づいて追加資料を作成しましたので、ご参考にして下さい。平成 30 年の問題も比較のため再度掲載しています。

1. 長期修繕計画

(1) 平成 30 年

【問題】

国土交通省が実施した「平成 30 年度マンション総合調査」によれば、長期修繕計画を作成していると回答した管理組合は、全体の 90 パーセントを超えている。[H13 マ-41(3)]

【解答及び解説】

○国土交通省が実施した「平成 30 年度マンション総合調査」によれば、平成 25 年度と平成 30 年度を比較すると、長期修繕計画を作成している管理組合の割合は増加し、平成 30 年度は 90.9%となっている。[H13 マ-41(3)]

(2) 令和 5 年

【原文】

長期修繕計画を作成している管理組合の割合は 88.4%となっており、前回調査の 90.9%から若干減少している。

【問題】

国土交通省が実施した「令和 5 年度マンション総合調査」によれば、長期修繕計画を作成していると回答した管理組合は、全体の 90 パーセントを超えている。[H13 マ-41(3)]

【解答及び解説】

×国土交通省が実施した「令和 5 年度マンション総合調査」によれば、平成 30 年度と令和 5 年度を比較すると、長期修繕計画を作成している管理組合の割合は若干減少し、令和 5 年度は 88.4%となっている。[H13 マ-41(3)]

2. 修繕積立金の積立額

(1) 平成 30 年

【問題】

「平成 30 年度マンション総合調査結果」によると、現在の修繕積立金の積立額が長期修繕計画に比べて不足しているマンションは、3 割を超えている。[R5 管-43(3)]

【解答及び解説】

○計画上の修繕積立金の積立額と現在の修繕積立金の積立額の差は、現在の積立額が計画に比べて不足しているマンションが 34.8%となっており、3 割を超えている。[R5 管-43(3)]

(2) 令和 5 年

【原文】

計画上の修繕積立金の積立額と現在の修繕積立金の積立額の差は、現在の積立額が計画に比べて不足しているマンションが 36.6%となっており、不足がある割合が 20%超のマンションが 11.7%になっている。

【問題】

「令和 5 年度マンション総合調査結果」によると、現在の修繕積立金の積立額が長期修繕計画に比べて不足しているマンションは、3 割を超えている。[R5 管-43(3)]

【解答及び解説】

○計画上の修繕積立金の積立額と現在の修繕積立金の積立額の差は、現在の積立額が計画に比べて不足しているマンションが 36.6%となっており、3 割を超えている。[R5 管-43(3)]

3. 永住意識

(1) 平成 30 年

【問題】

「平成 30 年度マンション総合調査結果」によると、回答した区分所有者のうち永住するつもりである区分所有者は、6 割には満たない。[R5 管-43(4)]

【解答及び解説】

×マンション総合調査結果によると、マンション居住者の永住意識は高まっており、62.8%の区分所有者が「永住するつもりである」としている。[R5 管-43(4)]

※前回教材の正誤…「○」→「×」

(2) 令和 5 年

【原文】

「永住するつもりである」が 60.4%となっている。年齢別では、年齢が高くなるほど永住意識が高くなる傾向にある。前回調査と比較すると、「永住するつもりである」は 62.8%から 60.4%へと減少し、「いずれは住み替えるつもりである」は 17.1%から 17.7%と増加している。

【問題】

「令和 5 年度マンション総合調査結果」によると、回答した区分所有者のうち永住するつもりである区分所有者は、6 割には満たない。[R5 管-43(4)]

【解答及び解説】

×マンション総合調査結果によると、マンション居住者の永住意識は、前回調査と比較すると減少しているが、60.4%の区分所有者が「永住するつもりである」としている。[R5 管-43(4)]